

保健婦の母子保健指導に関わる教育のあり方に関する研究

大野絢子* 宮地文子** 丸山美知子***

錦織正子**** 佐々木美佐子*****

長浦美晴***** 村山正子*****

要 約：平成5年度保健婦教育における母子保健指導の教育内容を57項目設定し、教育の実態を教務主任、卒業生、現場指導者に対し、統計的調査を実施した。平成6年度は現場の担当者との意見交換により、調査結果の妥当性を検討した。本年度は2カ年の研究をふまえ、研究Ⅰ「母子保健指導にかかわる保健婦基礎教育において強化すべき教育内容」と研究Ⅱ「体験学習を中心とした母子保健教育の実践例集」をまとめた。さらに卒後体系についての検討として、研究Ⅲ「新任保健婦等の職場内教育に関する実態調査」とし、全国市町村、保健所の保健婦長を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果の分析は次年度に計画、平成8年2月23日現在68、4%の回収率である。

見出し語：母子保健指導教育内容、体験学習、実践例、職場内研修

研究方法：

1) 研究目的

1. 本研究は、平成5年度保健婦教育における母子保健指導教育の実態を統計的調査、次いで平成6年度に前年度調査結果を基に現地調査（関係者による意見交換）により前年度統計的調査を検証した。その結果を踏まえ「保健婦教育における母子保健指導教育のモデル案の作成」「体験学習を中心とした母子保健教育実践例の編集」し、保健婦教育の教材として提示する。

2. 2カ年の研究において、卒後研修の体系化の必要性が示唆されたため、新任保健婦の職場内教育の実態調査を行い、効果的な卒後教育のあり方を検討する。

2) 研究方法

研究Ⅰ：「保健婦教育における母子保健指導教育のモデル案の作成」

平成5年度、平成6年度の結果を研究員による検討の結果、資料化する。（冊子作成）

研究Ⅱ：「体験学習を中心とした母子保健教育

*群馬大学医療技術短期大学部 **埼玉県立衛生短期大学 ***厚生省健康政策局計画課

****群馬県立福祉大学校 *****新潟県立看護短期大学 *****長野県公衆衛生専門学校

*****富山医科薬科大学

実践例の編集」

平成5年度統計的調査の結果、平成6年度の現地調査から学生が子供に触れ合う体験を持たずに入学してくるので、教育方法について体験学習の必要性の意見が多かった。そこで現状の教育で、体験学習を効果的に取り入れている実践例をまとめ、教材として作成した。

研究Ⅲ：「新任保健婦の職場内教育に関する

実態調査」

1. 調査方法：郵送によるアンケート調査

2. 調査対象：

①全国都道府県、政令市保健所の母子保健担当主務者

②市町村の母子保健担当主務者

①、②の計402名（10分の1調査）

3. 調査期間：平成8年1月～2月

4. 調査内容：

①新卒保健婦に対する職場内教育の現状

②母子保健に関しての教育指導について

5. 回収率：平成8年2月25日現在

回収275名、68、4%

結果と考察：

研究Ⅰ：研究結果－作成した教育教材

本研究における「母子保健指導」に関する教育内容モデル案（表2）

教育効果を高めるための演習・実習

（表3）

(1)モデル案作成にあたり、保健婦基礎教育の目標

(2)保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則に基づく看護婦基礎教育における母性看護学

と小児看護学の実践例と教育目標と教育内容

(3)保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則に基づく保健婦基礎教育における母子保健指導の教育目標と教育内容

(4)本研究における保健婦基礎教育の母子保健指導に関する教育目的と目標（表1）

以上の4点について検討し、試案を提示した。さらに平成5年度の統計的調査から、教務主任の15%以上が「特に力を入れている」、卒業生の20%以上が「よく学べた」、現場指導者の50%以上が「絶対必要」と答えている（表4）の教育内容をもとに、2年次現地調査、3年次研究員の検討を加えて、試案の提示をすることができた。

この試案はさらに教育項目毎に具体的な教育内容を検討し、文章化する作業を次年度に実施する予定である。

モデル案は表2・3に示すが、本研究は母子保健指導教育の視点から教育内容を調査してきた。研究を重ねていく中で、保健婦教育全体の枠組みを明確にしないまま、その一部である母子保健教育の教育内容を抽出することの困難性が明らかになってきた。

今回、この試案作成にあたり、看護婦基礎教育と保健婦教育の全体的な教育目標を確認する作業の中で試案の作成にあたったが、この作業手順の違いを修正することは困難であった。

今後さらに、保健婦教育そのものの方向を検討する必要性が示唆される。

研究Ⅱ：研究結果－作成した教育教材

体験学習を中心とした母子保健教育の実践

例集（表5） 冊子作成

体験学習を中心とした母子保健教育の実践 例集

平成5年度調査の自由記載の中で、実習方法について多くの意見が寄せられた。

(1) 少子化時代の学生は、その成長過程で子供に触れる機会が少なく、子供の扱い方、遊ばせ方など、従来なら家庭の中で経験していることが体験されていないので、教育の中で意図的に取り組む必要がある。

(2) 学生時代、「学んでよかった」と卒業生の52%が乳児の家庭訪問実習をあげ、新生児からの発育発達の経過をおった継続訪問実習をあげていた。

以上は代表的なものであるが、研究3年次として、体験学習を中心とした母子保健教育の実践例を教育教材として編集した。内容は次のとおりである。

- ① 母子の継続訪問実習: 東京都立医療技術短期大学
 - ② 年間継続実習において、妊娠・出産・育児の経過をおった指導体験学習: 群馬県立福祉大学校
 - ③ 基礎実習における継続訪問と健康診査等による、子どもの発達にそった、母子保健指導体験学習: 長野県公衆衛生専門学校
 - ④ 少子化時代における母子保健指導教育のあり方—子供に接する機会を多くするための工夫をした体験学習: 青森県立青森高等看護学院公衆衛生看護学部
 - ⑤ 乳幼児の発育発達評価の方法に関する体験学習の試み: 埼玉県立衛生短期大学
- 全国の保健婦教育機関は、体験学習について

各種の工夫をしているが、今回は5事例であり、今後さらにこのような事例を基に教育方法の検討を深める必要がある。

研究Ⅲ: 現在調査票回収中。集計、分析は来年度実施予定。

本研究を職場内研修としたのは、卒後研修の体系化については、都道府県、団体等による研究報告がされているため、新任保健婦の研修の実態調査を実施することにした。この結果をふまえ、卒後研修体系づくりについての継続研究を実施したい。

おわりに: 地域保健法の制定により、母子保健業務が市町村で実施されることとなった。平成9年度までの準備期間は保健所、市町村を中心として、住民サービスの質の向上を目指して検討がされることと思う。保健婦基礎教育においても、この現場の大きな変革に対して、保健婦教育内容および教育方法の改善のための研究がなされなければならない。

今年度研究により作成・編集した、表2・3「母子保健指導にかかわる保健婦基礎教育において強化すべき教育内容」、5例の「体験学習を中心とした母子保健教育の実践例」が教育現場、保健所、市町村の保健婦活動に活用されることを期待したい。

文献:

- 1) 厚生省健康政策局看護課編集: 看護教育カリキュラム, 1989. 6, 第一法規
- 2) 厚生省健康政策局看護課監修: 看護職員生涯教育検討会報告書, 1992. 9, ギャルランド社

- 5) 宮地文子、他：卒業後1か年間の新任者の実態からみた教育方法の検討、保健婦雑誌、VOL. 43, NO. 4, 1987、医学書院
- 6) 大野絢子：現任教育に関しての各県の現状と課題、保健婦雑誌、VOL. 45, NO. 3, 1989、医学書院
- 7) 赤部智子：新任保健婦教育のあり方の検討、保健婦雑誌、VOL. 45, NO. 4, 1989、医学書院
- 8) 山崎京子：保健婦活動の中でのOJT、保健婦雑誌、VOL. 49, NO. 6, 1993、医学書院
- 9) 林久男：OJTとはどういうものか、保健婦雑誌、VOL. 49, NO. 6, 1993、医学書院
- 10) 山根洋右、他：地域保健婦活動の当面している問題と卒後研修の課題、保健婦雑誌、VOL. 49, NO. 9, 1993、医学書院

表1 本研究における保健婦基礎教育の母子保健指導に関する教育目的と目標案

【 一般的教育目標 】

1. 地域における母子の健康生活を支える地域社会のあり方と地域母子保健活動の目的を理解する。
2. 母子保健指導に必要な基礎的な知識・技術を習得する。
3. 地域における母子健康活動の展開方法の原則を理解する。
4. 母子保健活動および学校保健活動における保健婦の役割を理解し、保健・医療・福祉・教育・労働分野との有機的連携の方法を学ぶ。

【 具体的教育目標 】

1. 生涯をとおした健康づくりの基盤である母子保健の位置づけを認識するとともに母子とその家族のセルフケア機能をたかめる活動の意義を理解することができる。
2. 母子が健康な日常生活を送る上で必要な基本的事項を健康ならびに生活環境との関連において適切に理解することができる。
3. 世界およびわが国・地域における母子保健に関する動向と特徴、主要な健康指標を理解し、具体的な事例において活用することができる。
4. 母子の主要な健康障害およびハイリスクへの対策について理解し、その保健指導の展開に適用することができる。
5. 地域の母子保健問題を把握し、地域の実情に応じた母子保健の展開方法が理解できる。
6. 地域母子保健を効果的に実践していく上で保健・医療・福祉等職種の業務内容を理解し、これらの職種とチームを組んで活動を展開することの重要性および、その中での保健婦の役割と責任について理解することができる。
7. 国および地方自治体における母子保健に関する行政組織（学校保健・労働衛生を含む）および制度を理解し、主な法規について基礎的な知識をもつことができる。

表 2 本研究における「母子保健指導」に関する教育内容モデル案

大 項 目	中 項 目	目 標
1. 母子保健体系	母子保健の理念・意義・目的 母子保健の歴史 母子保健の現状と課題 母子の健康生活水準の動向と現状 母子保健に影響する諸因子 母子保健における保健婦の役割 母子保健の体系と保健婦活動 母子保健事業 母子保健法／児童福祉法等における諸制度	1. 母子保健の理念・意義についての理解を深める 2. 活動の基礎となる法律・予算の基礎知識を伝える。
2. 母子に関する保健・医療・福祉のしくみ	母子健康手帳 妊産婦健康診査 B型肝炎母子感染防止事業 マス・スクリーニング 乳幼児健康診査	1. 法律を根拠にした諸制度について理解を深める
3. 母子保健指導の対象と基本的知識・技術	1. 母性保健指導 母性保護・生命尊重 ライフサイクルと母性保健指導 妊産婦の保健指導（婚前・新婚期、妊娠期、産褥期） 家族計画の実際 非妊娠女性・中高年女性の保健指導 勤労婦人と保健指導 2. 一般乳幼児の保健指導 乳幼児の成長発達の特徴 乳幼児の発育発達の評価 乳幼児の健康生活（含む事故予防） 新生児保健指導の方法 乳幼児保健指導の方法 乳幼児の食生活指導 疾病予防と予防接種 乳幼児の主な症状とケア（アレルギー、母子感染症等） 歯科保健指導 3. 健康問題をもつ小児の保健指導 未熟児の保健指導 ハイリスク母子への保健指導 慢性疾患をもつ小児の療養指導 心身障害児の保健指導 児童虐待 4. 思春期の保健指導 思春期の特徴と保健指導 性教育 5. 遺伝相談	1. 母子の生活背景を理解し対応できる。 2. ライフサイクルにおける母子の健康課題について理解を深め、保健指導の基本的事項が理解できる。 1. 健康な乳幼児の生活と育児の実態についての理解を深める。 2. 乳幼児の成長発達の評価の基本ができる。 3. 健康な小児の生活と育児支援の基本が理解できる。 1. 健康問題をもつ小児の把握、モニタリング、生活支援の基本が理解できる。 1. 思春期の健康問題の特徴と保健指導の課題および基本が理解できる。 1. 遺伝相談の意義・目的・基本が理解できる。
4. 母子に関する活動方法	母子保健活動の計画と評価 母子の家庭訪問 母子の健康診査 母子の健康教育 母子の健康相談／電話相談 地区組織の育成と共同活動 子育て支援と自助グループの育成 関係機関との連携	1. 母子保健活動の展開における保健婦の役割が理解できる。 2. 地区の母子健康管理の基本を理解できる。 3. 地区組織活動の育成の基本方法を理解できる。 4. 仲間づくり、グループワークの基本を理解できる。 5. 関係機関との連携に関する原則を理解できる。

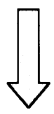
表 3 教育効果を高めるための演習・実習

大 項 目	中 項 目	目 標
1 演習	月例毎の発達の特徴と保健問題、保健指導 保健指導技術（V T R／モデル人形／模型等） ロールプレイング（乳幼児相談技術・家庭訪問技術） あそび／妊産婦体操／育児用品／離乳食 母子保健情報の収集・分析 母子保健活動の評価	理論と現実の実践を結びつける。 主体的学習を促す。 （関連科目で実施する内容を含む）
実習	母子家庭訪問 母子健康相談 母子健康教育 母子に関する社会福祉施設の実習 障害児の療育指導に関する施設の実習	子どもと接触する機会を設ける。 ハイリスク、障害児指導の体験学習を工夫する。

表 4 教務主任・卒業生・保健婦業務主務者からみた保健婦基礎教育で必要性の高い母子保健指導の教育内容

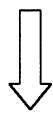
教務主任の 15 % 以上が「とくに力を入れている」と回答	卒業生の 20 % 以上が「よく学べた」と回答	保健指導主務者の 50 % 以上が「絶対必要」と回答
1. 乳幼児の成長発達の特徴 2. 乳幼児の発育発達の評価 3. 母子保健活動における保健婦の役割 4. 母子保健の理念・意義・目的 5. 一般乳幼児の保健指導 6. 乳幼児健康診査 7. 離乳の基本・準備・進め方 8. 母子健康手帳 8. 遺伝相談 8. 一般妊産婦の保健指導 8. 未熟児など問題のある児の保健指導 8. 思春期の保健指導 8. 家庭訪問指導 8. 地区組織の育成と共同活動 9. 心身障害児 9. 健康相談の方法	1. 一般乳幼児の保健指導 1. 家庭訪問指導 3. 乳幼児の成長発達の特徴 4. 乳幼児健康診査 5. 健康相談の方法 6. 一般妊産婦の保健指導 7. 乳幼児の発育発達の評価 8. 母子保健手帳 9. 母子保健統計 9. 母子保健活動における保健婦の役割 9. 離乳の基本・準備・進め方 9. 乳幼児の事故防止 10. 母乳栄養の確立 10. 学級活動の方法 11. 母子保健の理念・意義・目的	1. 母子保健活動における保健婦の役割 2. 家庭訪問指導 3. 乳幼児の成長発達の特徴 4. 乳幼児の発育発達の評価 5. 母子保健の理念・意義・目的 6. 学級活動の方法 7. 健康相談の方法 8. 母子保健統計 9. 母子保健行政と保健事業 10. 一般乳幼児の保健指導 11. 一般妊産婦の保健指導 11. 電話相談の方法 13. ハイリスク妊産婦の保健指導 13. 未熟児など問題のある児の保健指導 15. 妊娠・産褥期の生活指導 15. 乳児の生活習慣・しつけ

注) 〇 は 3 群に共通の内容



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:平成5年度保健婦教育における母子保健指導の教育内容を57項目設定し、教育の実態を教務主任、卒業生、現場指導者に対し、統計的調査を実施した。平成6年度は現場の担当者との意見交換により、調査結果の妥当性を検討した。本年度は2ヵ年の研究をふまえ、研究Ⅰ「母子保健指導にかかわる保健婦基礎教育において強化すべき教育内容」と研究Ⅱ「体験学習を中心とした母子保健教育の実践例集」をまとめた。さらに卒後体系についての検討として、研究Ⅲ「新任保健婦等の職場内教育に関する実態調査」とし、全国市町村、保健所の保健婦長を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果の分析は次年度に計画、平成8年2月23日現在68、4%の回収率である。